

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2015.WINTER [No.11]

新潟大学

授業紹介-教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ・対談

注目される研究報告

Campus Information



特集

学生たちの
魅力ある活動

— 育まれる
豊かな感性 —



新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」



新潟大学キャリアセンター学生プロジェクトCプロ

特集

学生たちの魅力ある活動

—育まれる豊かな感性—

興味や関心、豊かな学生生活、自分自身の人格形成などのため、グループ活動に汗を流す学生がたくさんいます。

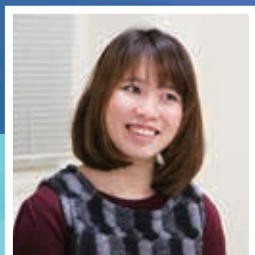
学生たちは目的を達成するために自主的に努力しながら、

団体生活における人の和の尊さ、強い責任感、リーダーシップなども体得しています。

今回の特集では、そんな魅力ある活動を行っている4つのグループを紹介します。



ダブルホームシンポジウム実行委員会



わかばくらぶ

CONTENTS

03 特集

学生たちの魅力ある活動

—育まれる豊かな感性—

08 授業紹介 - 教育の現場 -

09 Enjoy! 学生ライフ

10 シリーズ・対談

11 注目される研究報告

12 Campus Information

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

NEWS! 公式Facebookページを開設しました。

新潟大学 Facebook

本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信していきます。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いいたします。

Cover Photo

ボランティアをしたい学生とボランティアを募集している地域の方々をつなぐ大学公認のボランティアセンター「ボランち。」。2004年に学生教人により発足。撮影は彼らが活動拠点にする総合教育研究棟内学生談話室にて。



(お詫びと訂正)
本誌第10号に下記の誤表記がありました。お詫びして訂正させていただきます。
(訂正箇所)
11頁、注目される研究報告下段(橋谷英子教授)
○3段目左側の写真説明文2行目
(正) 侯家一座と
(誤) 侯家一座と
○3段目真ん中の写真説明文1行目
(正) 祠堂での
(誤) 祠堂での

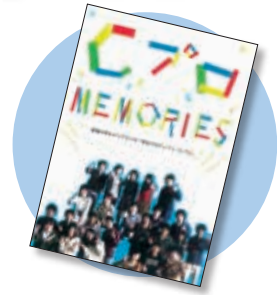
② 新潟大学キャリアセンター 学生プロジェクト Cプロ

What's 「Cプロ」?

新潟大学キャリアセンターと学生が協力し、社会人との交流、就活生のサポートを行いながら学生を支援する団体。下記「キャリアプロジェクト」(キャリアプロ)と「就活プロジェクト」(シュウプロ)の二つのプロジェクトで活動中。

Cプロ

新潟大学
キャリアセンター
学生プロジェクト



就活プロジェクト (シュウプロ)

● 就活プロジェクトとは…

実際に就職活動を体験した学生が、自身の体験談を伝えたり、各種セミナーを企画・運営。学生グループが自ら就活生を支援する様々な活動を行うプロジェクト。



今期のシュウプロをリードした3人。左から高世あゆ美さん(人文学部4年)、日野俊輔さん(経済学部4年)、坂上 榛さん(経済学部4年)

「就活プロジェクト」は、文字通り就職活動に直面する大学生の支援活動を行う学生団体。代表の日野さんは、活動を始めたきっかけを「一昨年の12月から就職活動をして、無事に内定を頂けたんです。だけど、せっかくいろいろ経験したことを自分の中だけにとめておくのはもったいない。それを先輩たちに還元し、少なからず役に立つことができれば意味もあるな、と思ったんですよ」と言う。具体的には、3年生など就活時期に直面する学生との懇談会や相談会、各種セミナーなどでその生きた情報を伝えている彼ら。「就職活動

は精神的にツライもの。そのときに私は、シュウプロの先輩にアドバイスを頂いたり、同じ代の友達と悩みを話しながら乗り切れたので、そういう思いを今度は後輩に伝えたいです」(高世さん)。ちなみに、この就活プロジェクトの活動は新潟大学キャリアセンターと共同で行っているものだが、「キャリアセンターは、僕らの活動拠点ですし、スタッフがいろんな相談に乗ってくださるし、就活に悩んだときはここに来れば何とかなるな、と。すごく良いきっかけをもらえる場です」(坂上さん)。大学と学生との良い連携がとれている好例のようだ。



シュウプロによる「第3回就活交流会 しゅうとも」(2015年1月21日開催)。内定を獲得した4年生らが下級生に「就活の軸」を伝授



キャリアプロジェクト(キャリアプロ)

● キャリアプロジェクトとは…

大学生が、視野を広く持ち、学生生活を充実させるきっかけづくりを行なうことを目的に、社会人を招いて語らう「キャリアcafe」など様々な体験イベントを企画中。



佐藤明日香さん(経済学部3年/写真左)と馬場 茜さん(経済学部1年/写真右)。先輩の佐藤さんいわく「馬場さんはキャリアプロ期待のエースです」

大学生の中には、将来や学生生活に漠然とした不安を抱えている人も多しはず。そんなモヤモヤ感を自分たちの力で吹き飛ばそうと、学内外の様々な人と語らうイベント「キャリアcafe」などを企画しているのが「キャリアプロジェクト」だ。現在、約30人のメンバーが在籍するが、入って半年余という1年生の馬場さんも、きっかけはその「キャリアcafe」参加だったとか。「社会人の方をお招きして学生と何の垣根もなく話す集まりなんですけど、私が参加したとき、とにかく雰

囲気が楽しいし、先輩方もいい人たちばかりだったんです。それで、「このまま入らなよ」と先輩に言われて…こうなっちゃいましたね(笑)。その後、実際に活動しつつ「私はまだ1年生ですけど、早い段階から社会人の方や先輩たちと話をすることで、自分の視野がすごく広がっていますね」と馬場さん。堅苦しさはなく気軽なトークの中からキャリア形成を目指すこのプロジェクトは、学生が中心に企画内容を決めて現実に移している点に、とても意義を感じさせる。

キャリアプロ主催、各業界の若手社会人を招いてカフェ感覚でトークするイベント「第5回キャリアCafe」の様子(2014年6月13日開催)



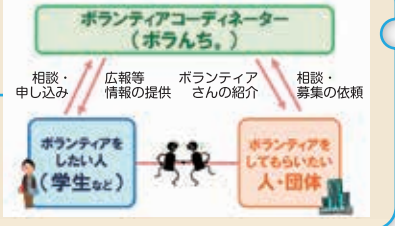
取材に応じてくれたシュウプロ、キャリアプロのメンバーたち。プロジェクトは違えど互いの交流も盛んで、取材中は笑顔が絶えないところからも充実した活動ぶりが伺える

① 新潟大学 学生ボランティア本部 「ボランち。」



What's 「ボランち。」?

学生と地域の方々をつなぐ
大学公認のボランティアセンター。2004年に発足した。



地域と学生が求めるボランティア活動をコーディネート。全国的にも珍しい学生組織

学生の団体活動と言いつと、「楽しいもの」「的なイメージが前に出ないのだが、中には、楽しさよりも地域貢献といった社会的意義がある活動を展開中の団体もある。この「ボランち。」はその代表格と言つていい。もともとは2004年10月に発生した中越地震を受け、新潟大学の学生数人が震災ボランティア本部として結成。現地にボランティアへ行きたいがどうしたらいいのか分からない学生を支援する形でスタートし、現在は災害のみならず、多様な分野のボランティアを地域と学生の間に「コーディネート」している。代表の角野(かくの)さんは「ボランティアなどやりたいことがあるという志を持つメンバーが集まっているので、良い活動ができていくのでは」と微笑む。ただ、彼女自身は特にボランティアをやりたいと入ったわけではないのだとか。「それよりも」学生と地域をつなげていきたい!という思いがずっとあって。その手段としてこれがベストだと思っただんです。いろんな人がボランティアとして地域の中に出ていけば、そこには必ず学びがある。そのつなぎ役は絶対やりがいがあるし、それって実は、地方の国立大学で学ぶ自分たちの役割のひとつでもあるんじゃないかと。私は岐阜県出身なんですけど、新潟はそういう地域活動が盛んな県であり、新潟大学も地域とつながっている大学という印象も魅力的だったので目指したところはあったんですよ。目的意識の高さに驚かされるが、さらに「ただ人を派遣する団体ではなく、つなげた先のことを見据えてやっていきたい」と語る角野さん。「そのために、地域と学生の両方向に、何をボランティアに求めるのかと働きかけるような団体に、活動内容を深めていきたいと思います。こういった真摯な組織を学生が運営しているのは全国的にも珍しいはず。実に頼もしい学生たちである。」

代表
角野仁美さん
(教育学部2年)

いろんな所でいろんな人と会い、「こういう世界があるんだ!」と知ることができる。視野も広がり、豊かな時間を過ごせていますね。

● 「ボランち。」への問い合わせ

TEL.025-262-7530(主に平日の12:00~16:10)
Mail:gakuserv@adm.niigata-u.ac.jp
http://nuvc.jimdo.com/
facebook twitter あり



ボランティアに興味がある学生へ様々な情報を提供。センターは新潟大学総合教育研究棟内学生談話室にある



事務室の壁にはミーティング結果や連絡事項がこんな感じで貼られていた。この可視化は、まるで企業のように



「ボランち。」からの提案で、新潟市西区社会福祉協議会とボランティアコーディネーターの勉強会を開催

学生たちの魅力ある活動 ④ わかばくらぶ



What's 「わかばくらぶ」?

医歯学総合病院内小児科プレイルームにて、おりがみ、ブロック、お絵かきなどで入院中の子供たちと遊ぶ学生ボランティアチーム。医学部保健学科の学生が主体となり2002年に設立。今年は1~3年生20名以上が参加した。

2002年「わかばくらぶ」設立にあたり、当時の学生が掲げた方針

「看護という道を選んだ私たちですが、実際に闘病する人たちに関わったことのあるひとは少ないと思います。保健学科の田原先生より、いろいろな現場での患者さんの話を聞く機会があり、その話に感動した私たちは、先生の協力の下、活動の場を作ることになりました。そして、新潟大学医学部の附属病院のご理解もあり小児病棟で活動させていただくことになりました。

私たちは今、専門的な技術もない、病気についての詳しい知識もありません。しかし今、医療に対して大きな期待と興味を抱いています。小児病棟という閉鎖的に思われる中にいる子どもたちと話したり、遊んだりすることで、子どもたちが楽しんだり喜んでくれたらと思います。ボランティアをする上でプラスやマイナス、様々なことがあります。しかし活動することで誰かの役に立ちたいという純粋な思いを大切に、私たちができることから活動を始めていけたらと思っています」



医学部ならではの活動だと思いますし、大学の実習よりも早く子どもたちに関わるいい機会になってます!

左から松本恵美さん(医学部保健学科2年)、山本陽香さん(医学部保健学科2年)、阿部菜々子さん(わかばくらぶ前代表・医学部保健学科3年)

病棟のいびもたちと一緒に遊ぶ保健学科の学生ボランティアチーム

「子どもたちに、自然な形で楽しさを感じてもらいたい」
新潟大学医学部保健学科の学生による「わかばくらぶ」は、大学病院に入院中の子どもと院内のプレイルームで一緒に遊んだりするボランティアチーム。この活動は、将来、医療に関わる者として現場の雰囲気や患者への対応を学ぶ場であり、病棟のこともとの触れ合いを通し、人間性を高め、社会的責任を自覚する体験にもなっている。ただ、病棟のことも相手なので気遣いも多そうだが、「もちろん注意すべき点はたくさんあります。でも、

相手は、患者である前に子どもなので、あまり特別扱いし過ぎず、ひとりの子どもとして接することが大事だと思うんです。だから遊ぶときも、基本的にやりたいことをやらせて、そこに自然と私たちが入っていく——「何やってるの? 折り紙?」じゃあ、お姉ちゃんも交々せて(笑)「みたいな感じですよ(阿部さん)。そういった活動を通して一番嬉しいのは、やはり子どもたちの笑顔を見たときだとか。2年生の2人も賛同する。「小児病棟に入院していることも私たちは、普段、人との関わりも限られていると思うので、私たちがとんとん遊び

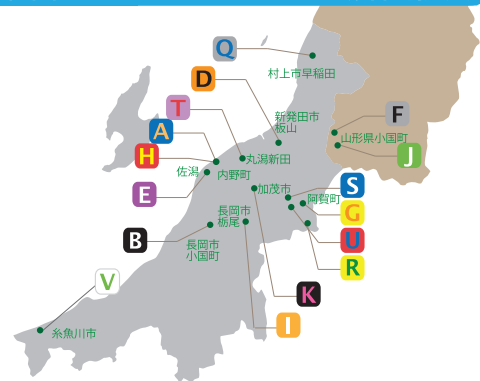
に行くと、楽しんでもらえるように接していきたい(山本さん)。「子どもたちはもちろん、一緒にいるお母さんの嬉しそうな顔を見ると、本当にやりがいを感じます。その回数をもっと増やしていきたいですね(松本さん)。感情を素直に表すこともたちが相手だからこそ、自然な楽しさ「が何よりも大事なポイント。こういう活動こそ、誰かにやらされる形ではダメだろうし、実際、彼女らは自ら希望して参加し、子どもたちの笑顔をどう引き出すか考えながら活動している。新潟大学の理念である「自律と創生」がしっかりと息づいた活動と言えそうです。

学生たちの魅力ある活動 ③ ダブルホームシンポジウム 実行委員会

What's 「ダブルホーム」?

学生が、自分の所属する学部(ホーム)以外に、もうひとつ、教職員と共に地域の人たちと連携し、大学の枠を越えて活動するホームに所属できるという新潟大学独自の取り組み。

広範囲にわたる16ホームの地域活動拠点



担当教員の声

教育・学生支援機構 学生支援センター 櫻井典子先生

今年は委員の人数が多かったのですが(19人)、中心にいた3人はとても個性的で、個々の持ち味をいかし、時にぶつかり合いつつも、いいシンポジウムをつくってくれたと思います。「もっとダブルホーム活動をいいものにしたい!」という目標共有が大事な、と改めて分かりましたね。



仕事が増えて大変!ではなく、自分たちで何かを作ったり、多くの人と出会う楽しさがありました



シンポジウム 副実行委員長 五十嵐利輝さん (法学部2年)

シンポジウム 実行委員長 外山沙樹さん (教育学部2年)

シンポジウム 副実行委員長 内藤成久さん (教育学部2年)

ダブルホームの成果を発表するシンポジウム その企画・運営をになう実行委員たち

一年の成果を発表する場を、学生がとりまわって運営。学部の枠を超え、地域の方々と連携して活動する中で学生の社会貢献とコミュニケーション能力を向上させようと、新潟大学が2007年度から始めた「ダブルホーム」が、一度、活動に携わった人たちが一堂に集い、成果を発表するシンポジウムが行われる。学内外から3~400人は集まるこのシンポジウムの企画・運営を担うのが、学生たちによる「ダブルホームシンポジウム実行委員会」。今年度は昨年12月に開催され、シンポジウムの実行委員長と副委員長(2名)に手応えを振り返ってもらった。「例年と同じ内容では楽しくないし、せつなく地域の方が新潟大学に来てくださる機会でもあるので、大事な場にした」というのは、この3人の中でありました。それで、例えば分科会の一番最後に、その分科会で話し合った内容をホームごとにミーティングす

一年の成果を発表する場を、学生がとりまわって運営

る——学生・地域の方、教職員の皆さんで課題を共有し、次回につなげられるような工夫をしたつもりです(外山さん)。二人の副委員長もダブルホームの成果をこう言葉にする。「シンポジウムのテーマにもある通り、三位一体——学生と地域と教職員が一緒になって活動しているのが特徴であり、そういった人々と関わりが持てるのが、他のサークル活動にはない部分(五十嵐さん)。「僕自身、地域に行くと知らない人たちが話す中で性格も明るくなったと言わ(笑)。そういう、学力だけでは測れない自分の才能を見つけてくれる場だな」と(内藤さん)。さらに「この活動で地域に出て、いろいろな人たちと出会い、考え方を学ぶことができた。中でも様々な意見を戦わせました。この経験は、今後社会に出ていく上で、もっと役に立つと思います」と外山委員長。意義あるダブルホームの活動は、こうして次代へと引き継がれていくのだ。

2014年12月13日開催「ダブルホームシンポジウム2014」の様子



約300名が参加し、今年度の活動を振り返り、今後の展開を議論
学生、地域の方々、教職員が車座になって熱い議論を繰り広げる

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP!

**技を通し精神を高める
合気道部**

運動系



護身術としても活用できます

↑技をメインに取り組む全体練習は真剣。練習後は和気あいあいと自主練習に励む部員も多い

**演技はもちろん
人間力も磨かれる**

「合気道は相手の力を受け流す武術です。試合によって優劣を決めるということではなく、日々の練習を通して自身の技や精神を磨いていきます。現在の部員は私自身を含め、大学から合気道を始めた初心者がほとんどです。練習は厳しいですが、部員同士の仲がいいので雰囲気よく活動に取り組んでいます。合気道は競争ではないので、自分を高める穏やかな心持が育ちます。練習によって培った集中力は学業でも役立っています」



部長 倉重 乾さん(教育学部2年)

CIRCLE PICK UP!

**鉄道の魅力を語り合う
鉄道研究部**

文化系



精巧に作られたNゲージに視線は釘づけ

↑各種イベントでプラレールを展示。あっと驚くハイクオリティな仕上がりに

**イベント展示のほか
電車旅も実施**

「鉄道研究部は部員約40名。県内各地で行なわれる鉄道イベントの出店や運営ボランティア、プラレールやNゲージなどの組み立て・展示など、鉄道にまつわる様々な場面で多岐に渡り活動しています。毎週金曜日の部会は、鉄道に関する事柄を仲間たちと語り合う充実した時間。また、部員には旅好きも多く、電車を使った旅行も恒例行事のひとつです。鉄道はとて地域性のある乗り物で、魅力は尽きることはありません」



副部長 間地 啓太さん(人文学部2年)

CAMPUS TOPICS!

人命救助を行った学生を表彰しました

平成26年12月22日(月)に五十嵐キャンパス事務局棟において、飲食店で倒れ心肺停止状態になった人を人工呼吸やAEDを使って救助した医学部5年の石橋典幸さん、長谷川順紀さんに対し、学長による表彰を行いました。表彰式には、学長をはじめ理事、副学長、医学部長らが出席し、2人の勇気的確な処置に対して、賞賛の言葉を贈っていました。



平成26年度キャンパスミーティングが開催されました

今年の新大キャンパスミーティングは、本学の教育理念「自律と創生」を実質のあるものとしていくため、学生と学長が大学での学びや学生生活について語り合い、魅力ある大学生活の実現に向けた意識の共有化を図る機会としました。学長から「後輩・新大生への期待」、学生から「よりよい大学教育・学生生活を目指して～農学部学生の意見から～」と題したプレゼンテーションが行われ、「新潟大学での学び」をより魅力的なものにしていくためにはどうしたらよいか有意義な議論が交わされました。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介 — 教育の現場 —

第11回 医学部保健学科

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

内山美枝子 准教授

Profile
専門は基礎看護学。快適さを重視した看護技術とケアの開発について研究。



診療援助技術演習

**患者の健康回復に必要な基礎的知識・技術・態度を学習
少人数制グループ編成で臨床に即した実技指導を行う**

「診療援助」とは、診療過程における、健康障害を持つ医療対象への援助。学生たちは、治療を受ける患者の健康回復に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。「感染防止の技術(標準予防策・無菌操作)、診療・検査時に関する援助技術(採血・注射)について学生たちは講義と演習を組み合わせで学習しています。特に実技体験を取り入れた演習の特色は、臨床に即した実技指導のため、少人数制のグループを編成し、新潟大学医歯学総合病院の看護師に非常勤講師として教育・指導を担ってもらって

点。学生には、単に援助技術の手順を覚えるのではなく、診療援助の必要性や援助を受ける人に与える影響などを考察し、技術を身につけてほしいと思います」。

本専攻を卒業した学生の多くは、保健師や看護師、助産師として社会に貢献する人材。本講義は、あらゆる場において必要な基礎的素地になる。「教育では順次性が重要。そのため、まず学生の生活上で身近な具体的な内容を事例に挙げたうえで、医療機関ではどのようなかなどを進めていくように努力しています」。



STUDENTS VOICE

「鎮痛剤の注射の手順など、非常に実践的な学習をしています」(佐藤)「演習での初心と緊張感を忘れずに、臨床の現場にいかしていきたいです」(藤崎)「講師を担当してくださる医歯学総合病院の看護師のみさんから、より臨床に近い視点や技術を学んでいます」(竹内)



右 佐藤美沙都さん
中 藤崎由希子さん
左 竹内悠太さん
(3名とも医学部保健学科2年)

中村 勝 教授

Profile
専門は精神保健看護学。当事者の自立支援や社会参加の促進に取り組む。



健康支援関係法規

**看護職が理解すべき関係法令の基本的事項を概観
立法化された背景や最近の動向を考える**

「健康支援関係法規」では、看護職が職務上、理解しておかなければならない関係法令の基本的事項を概観し、立法化された背景や最近の動向を考える。「医療保健サービス体制は複雑かつ多様化しています。安全で質の高いサービスが提供されるには、まず医療に携わる者が法令を正しく理解し順守しなければなりません。法の適切な運用は国民一人ひとりの幸福や生活の質に直結し、一国の文化水準を示しているとも言えます」。

の安全を保障し、自身を防御する意味においても、適法性や法令順守は常に意識しなければならない。「一方、社会は変化し続けています。現行法に安住したり、束縛されるのではなく、現場の状況をもっとよく知る専門職の立場から規定の見直しを検討したり、自治体への政策提言など果敢に挑んでほしいと思います。法律は規制や救済が必要な社会的課題があって制定されるもの。時代に順じて課題は多様化します。法改正の見直しについても審議会意見、行政機関HP、新聞記事などから紹介し、柔軟に対応できる力を養っています」。

医療従事者は事故が発生すれば多くの場合、加害者の立場となる。利用者



STUDENTS VOICE

「看護に対する基本的な法律を学ぶだけでなく、他の専門講義での知識や技術が、どの法律によって定められているのかも知ることができ、さらに理解が深まります」(伊野)「看護師の業務は法律に従って行われていることを知りました。医療を志す私たちにとってとても大切な時間です」(小宮)



右 伊野 碧さん
左 小宮亜紀穂さん
(両名とも医学部保健学科2年)

研究課題

素粒子論における「強い力」高温高密度での量子色力学

自然科学系(理学部) 江尻信司 准教授

宇宙誕生直後の超高温状態など未知の世界を理論的に探索



江尻信司 准教授

博士(理学)。研究分野は素粒子論、計算物理学

物理学の素粒子論によれば、自然界を支配する基本的な力は、重力、電磁気力、弱い力(弱い相互作用)、強い力(強い相互作用)の4種類あると言われる。江尻准教授はこの中の「強い力」を研究。「強い力と言っても、通常は原子核の中だけで働く力なのであまり身近な存在ではありません。ですけど、例えば宇宙誕生直後の超高温状態や特殊な天体の内部のような超高密度状態では、その強い力が重要な役割を果たします。そこで何が起るのか、そういった「極限系の物理」につい

て、スーパーコンピュータを使った大規模数値シミュレーションにより、量子色力学(QCD)の解析をするという研究をしています」。ここで言う「宇宙誕生直後の超高温状態」とは、今から百数十億年も前のビッグバン(宇宙誕生)0.00001秒後で、そこは1兆℃くらいの世界だとか。「当然ですけど、直接行って調べられないし、「強い力」が支配しているような世界は、まだまだ分からないことがたくさんあります。強い力の基礎理論QCDの計算は非常に難しいと言われていたのですが、最近では、コンピュータで強引に計算して大きな成果が得られています。コンピュータを使えば、いろんな謎が解明できるかもしれないと思って研究を始めたのですが、まさにQCDはそういう研究分野でした」。その研究の果てに何をしようとしているか。「やはり「科学史の1ページ」ですね。誰も見えない宇宙の歴史を科学技術の力でのぞいてみるという感じでしょうか」。

→実際に使っているコンピュータの一部。「量子色力学はコンピュータの進歩のおかげで研究が進んできた」と語る



新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究課題

感染のメカニズム解明と制御法の研究

年々、病因別死亡者率の「肺炎」が増加。今や年間約10万人もの死亡要因となっている。「しかし、肺炎をはじめとする感染症の研究には未だ不明な点が多く、有効な治療法や予防法が少ないという問題を抱えているんです」と寺尾教授。「そこで、今まで感染症研究には使われていなかった「ナノテク」のイメージング機器を活用し、感染現象を目で見えるかたちで解析しています。そこから得られた新発見から、やはり「ナノテク」を用いた「新薬」の研究へと展開したいと考えています。左下画像右上ブロックの電

「ナノテク」で感染現象を解析 創薬イノベーション研究へ展開

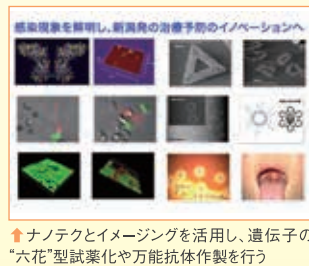
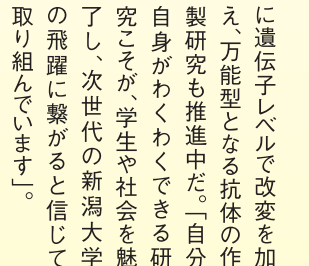
医歯学系(歯学部) 寺尾 豊 教授



寺尾 豊 教授

歯科医師、歯学博士。専門は細菌学・感染症学・分子生物学

子顕微鏡写真は、直径数ナノメートルの遺伝子線維を人工的に編み込んで作った「ナノテク」試薬だ。「遺伝子を三角に加工する技術やベースに、様々な形を作ることが出来ます。新潟大学の校章「六花」に見立てた形も作製可能なんですよ」。この「六花」形態の遺伝子には、花びら部分に体の抵抗力を高める設計が施されている。「花びら部分が体内で免疫細胞を効率的に刺激し、感染防御を補助するという計算になっています。まさに新潟大学ならではの研究だとか、ひとつの病原体にしか効果が発揮しない抗体



↑ナノテクとイメージングを活用し、遺伝子の「六花」型試薬化や万能抗体作製を行う

↑専用プログラムを作成し、学生自身のスマートフォンを活用した双方向授業も実施

↑歯学部の中堅若手と分野横断的なネットワークを形成。27年度からの組織改革の原動力に



芳井研一 名誉教授

専門分野は日本近現代史。1976年から2013年まで新潟大学で教鞭をとる。本学人文学部長、環東アジア研究センター長を歴任。



藤原 圭さん

1984年3月 人文学部卒。現在は新潟県立柏崎高等学校教諭



今野 誠さん

1998年3月 人文学部卒。現在は新潟市文化スポーツ部歴史文化課勤務

「お酒を飲んだこと。奥様がふるまってくれたポテトサラダの味は忘れられません。もう一人の恩師、山田先生のお宅ではとつておきのウイスキーをいただきます(笑)。私たちは図々しくも「さあ、今日はどちらにお邪魔しようか」と相談していましたよ(笑)」。

「小松 先生はスキーが得意でしたね。雪山でもご指導いただきました。私が覚えているのは、コンパの後、先生のご自宅

「本日芳井先生のゼミで日本近現代史を学んだみなさんにお集まりいただきました。芳井 先生はテーマや資料を与えて指導するタイプではなく、人を見ながら彼らの興味を探り、どうすれば熱心に研究に取り組んでいけるのかということもいつも考えていました。近現代史は史料を精査し、そこから何かを見つけていく作業。問題意識は調査の過程でつきりしてきてくると思っていましたから、随分いろんな場所へ調査に行きましたね。」

「一週間の泊まり込みでしたよ。小松 中条の調査では胎内の合宿所に泊まったんですが、そこは食事が自炊で。それなのに学生は誰も料理ができなくて、先生に作っていただきました(苦笑)。夜はお酒を飲みながらトランプ。先生はナポレオンが強く、全然歯が立ちませんでした(笑)。」

「芳井 調査とは別にゼミ旅行もたくさんしていましたね。藤原 先生はスキーが得意でしたね。雪山でもご指導いただきました。私が覚えているのは、コンパの後、先生のご自宅

「芳井 そう、お酒を飲んだ後の宿は重要な問題です。平賀さんの代は特にすごくて、卒業後も五十嵐でアパートを借りている人がいましたね。いつでもみんなと夜通しでお酒を飲めるように(笑)。」

「小松 本当ですか? 平賀 学生たちが自由に意見や評論を書き込んだ「言行録」ですよ。懐かしい(笑)。」

「小松 先生は誰か懐かしい人ですか? 芳井 懐かしい人はいないです。懐かしい思い出はたくさんあります。懐かしい思い出はたくさんあります。懐かしい思い出はたくさんあります。」

シリーズ・対談

恩師 芳井研一 名誉教授

元・人文学部教授

教え子: 平賀明彦さん 藤原 圭さん 小松 彰さん 今野 誠さん

対談場所/南魚沼市郷土史編さん室



平賀明彦さん

1978年3月 人文学部卒。現在は白梅学園大学教諭



小松 彰さん

1987年3月 人文学部卒。現在は新潟県立新潟高等学校教諭

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!

「青少年のための科学の祭典」に出展しました



平成27年2月7日(土)～8日(日)新潟県長岡市のアオーレ長岡にて、「青少年のための科学の祭典 新潟県大会」が開催され、理学部、工学部、農学部、医工連携(医学部保健学科、工学部)が参加し、多くの来場者に科学の不思議さ、物作りの

素晴らしさを体験してもらいました。会場には家族で訪れた大学の卒業生も来場しており、母校のブースで科学を体験するお子さんを温かく見守っていました。



新潟大学全学同窓会が「求人情報配信事業」を開始しました

新潟大学全学同窓会では、日ごろからご支援をいただいている協賛企業・団体の皆さまを対象とした「求人情報配信事業」を開始しました。これは、新潟大学の卒業生と協賛企業・団体との繋がりをより強固なものにするとともに、新潟大学卒業生のUターン、Iターンを支援することを目的としています。協賛企業・団体から依頼のあった求人情報は、新潟大学全学同窓会ホームページの求人情報コーナーに掲載します。なお、求人情報の配信を行います、その後の手続き等は全て当事者間での交渉となりますのでよろしくお願いします。詳しくは以下のURLをご覧ください。
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/index.html>

新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。
※税法上の優遇が受けられます

●基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新大サポーター連携推進室

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-7796

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。
卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

入会受付中

●新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00)

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学 季刊広報誌 **六花** RIKKA No.11
2015.Winter

■発行/平成27年2月 ■編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

■電話/025-262-7000 ■FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook <https://www.facebook.com/niigata.univ>

編集後記

今号の特集では学生の魅力的な姿について取材しました。どの学生団体もメンバー全員が同じ目標に向かって取り組み、自分たちの作り上げたものを後世に伝えることによって自らも成長していくと語ってくれた表情は充実感に満ちていました。そんな学生たちのためにも、この主体的・自律的な活動が脈々と受け継がれてほしいと思います。(YAK)